

研究課題名	局所進行膵癌における膵全摘術、残膵全摘術の意義と安全性
研究の意義・目的	膵全摘術、残膵全摘術は、手術侵襲が大きく、膵内外分泌機能喪失を伴うため、有効性だけでなく安全性も十分に考慮する必要があります。今回の研究で、当院において膵全摘術、残膵全摘術を受けた患者と膵頭十二指腸切除術を受けた患者のデータベースを作成し、比較検討することで、この術式の意義と安全性を検証し、今後の診療に生かすことが目的です。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ～ 2025 年 3 月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2007 年 1 月から 2021 年 12 月までに、膵癌と診断された方で、膵全摘術、残膵全摘術、膵頭十二指腸切除術を受けられた方を対象とします。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報：病歴、診断名、年齢、性別、既往歴、身体所見、手術所見、血液検査、画像検査、病理検査、術後経過、再発の有無、最終生存日
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科肝胆膵外科学のみで行います。 【研究代表者】 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆膵外科学 木村健二郎
本研究の 利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆膵外科学 担当者氏名：木村 健二郎 電話番号：(06) 6645-3841 メールアドレス：v21873r@omu.ac.jp